

(西暦) 2024 年度 博士後期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること)

Verification and Comparison of the Occupational Balance Model and Work-Life Balance Model in the Mental Health of General Workers
勤労者の精神的健康における作業バランスモデルとワーク・ライフ・バランスモデルの検証と比較

学位の種類: 博士 (作業療法学)

東京都立大学大学院

人間健康科学研究科 博士後期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域

学修番号 20996704

氏名: 山田 優樹

(指導教員名: 小林 法一 教授)

注: 1 ページあたり 1,000 字程度 (英語の場合 300 ワード程度) で、本様式 1~2 ページ (A4 版) 程度とする。

はじめに

ワーク・ライフ・バランス (WLB) は、勤労者の健康を左右するため、国内外の政府における重要な施策として位置付けられている。勤労者の健康には、主要な健康プロセスモデルがあり、それを基盤として、仕事要因の是正を目的とした対応がなされている。しかし WLB の観点から、生活領域に関する知見に欠け、仕事面よりも軽視されているとの指摘があり、勤労者の健康増進には、仕事面だけでなく、異なる方向からの対策の余地を残していると思われる。そこで本研究では、仕事だけでなく生活全体の視点から健康を考える、作業バランス (OB) を勤労者の精神的健康への支援の新たな糸口として着目した。

本研究の目的は、一般勤労者を対象に OB をもとにした健康プロセスモデルの構造的関係性を検討し、従来の類似モデルと比較することであった。

方法

本研究は、2つの仮説に基づいた構造モデルを検討し比較を行なった。1つ目の仮説モデルは、仕事および生活による WLB の崩れは、情緒的消耗感を高め、そして、情緒的消耗感は精神的健康を低下させる。2つ目の仮説モデルは、OB は情緒的消耗感を軽減し、そして、情緒的消耗感は精神的健康に影響を与える。

対象は、一般の勤労者とし、基本情報及び WLB, OB, 情緒的消耗感、精神的健康に関する測定尺度への回答を求めた。分析は、確認的因子分析にて測定モデルの因子構造を確認した後、仮説に基づき構造方程式モデリングにて2つの構造モデルを検証した。その2つのモデルを CFI などの適合度指標、パスの推定値や決定係数の観点から比較した。

結果

対象者は、男性 160 名、女性 160 名の合計 320 名であった。確認的因子分析の結果、WLB, OB, 情緒的消耗感は適合度の観点から基準を満たさず、因子構造の修正を要した。

1つ目のモデル検証の結果、適合度は基準を満たしたが、非有意なパスがあり再度分析を行った。CFI=.982, TLI=.979, RMSEA=.074 (90% CI [.064, .084]) と適合度の改善を認めた。2つ目のモデル検証の結果、変数間のパス係数で有意な値が得られていたが、適合度で基準を満たさず、修正指標をもとにモデル構造の修正を要した。修正後は、CFI=.979, TLI=.975, RMSEA=.080 (90% CI [.069, .091]) と適合度は大幅な改善を認め、基準を満たした。

考察

1つ目のモデルは、パスに修正を要したが、WLBの主要な研究や文献レビューにて確認されている経験的なモデルであり、妥当な結果が得られたと考えられる。2つ目のモデルは、情緒的消耗感から精神的健康へのパスを削除し、OBから精神的健康へのパスを設定する必要がある、モデル構造の修正が必要であった。修正を要した理由として、OBが情緒的消耗感と精神的健康の交絡因子として存在、あるいはOBから精神的健康への直接効果が強すぎることで情緒的消耗感から精神的健康への間接効果を弱めてしまった可能性が考えられる。

2つ目のモデルは、1つ目のモデルに比べて、精神的健康へのパスの推定値と決定係数が高く、OBを含む2つ目のモデルの方が勤労者の精神的健康をより予測する可能性がある。本研究の結果より、一般勤労者においてOBと精神的健康の関係性が支持されたことから、OBは一般勤労者の精神的健康を左右するパラメーターになる可能性があると思われる。